

毎月11日は「人権を確かめあう日」です。

2021/01/08 人権教育部

〇お姉さんに関わるなかで、自分の中の差別や偏見に気づく様子が語られています。筆者は筆者のお姉さんに手を差し伸べ続けたいと結んでいます。これは、お姉さんへの差別と闘うことでもあります。この作品を通して、読んだ私たちが、いまだなくならない差別や偏見に気づき、その差別や偏見と闘うきっかけにしませんか。

人権について思うこと

私は普段、人権について考えた事はあまりありませんでした。調べてみると「人が生まれながらにして持っている基本的な自由と権利であるとともに、すべての人がしあわせな人生をおくるために欠かすことができないものであり、現在だけでなく将来にわたって保障されるべき権利」と書いてありました。この言葉には色々な意味が含まれていると思いますが、私はその中でも日常の中で、ふと感じる差別や偏見について考えてみました。私には2つ上の姉がいますが、障害をもっています。小さい時は、いつも一緒に遊んでいて、特に姉に対して何も感じていなかったのですが、姉の存在が気になり出したのは、私が小学校4年生の頃でした。友達とグループで仲良くなり始めた頃です。姉は小学校の特別支援学級に通っていました。人と関わる事が大好きで、誰にでもあいさつをしていた姉でしたが、挨拶をしても返してくれなかったら、その人が挨拶をしてくれるまでしつこく言い続けたり、人目を気にせず大声で叫んでいる姿を見ていて、私の友達にも「〇〇ちゃんのお姉ちゃん？」と聞かれたりして、正直恥ずかしいな、嫌だな、と思うようになっていました。なので、本人に対してきつく当たってしまったり、一緒に歩かない様にしたりしてしまっていました。この頃は、私自身が姉の事を、姉の障害自体をちゃんと理解してあげられてなかったのです。でも、姉の周りには手を差し伸べてくれる人がたくさんいて、姉はいつも元気に学校へ行き「楽しい」と言っていました。優しく姉に声を掛けてくれる人の事を大好きと言っている姿をよく目にしました。そんな姿を見ていて、知らずしらずの内に自分の中で、「差別」や「偏見」の気持ちが生まれていたんだなと思うと恥ずかしくなりました。そして、「可哀想だから手伝ってあげよう」という発想で

はなく、その人が頑張っている、努力している部分を知り、理解した上で、自分が出来る事は何かないとまず考えてみる事が大切だと思いました。

姉は特別支援学校の高等科で毎日1人でも生きられる様にと作業や実習を頑張っています。つらい事もたくさんある中でも、姉は毎日楽しいと言っています。そんな姉の姿を見ていると私も頑張ろうと思います。姉に対して直接的な手助けは出来なくても、間接的に助けられる事を見つけ、これからも頑張る姉を応援し続けます。

一人一人が自分らしく生きる為に大切なことは、その人を受けとめる事と、分かち合う事が大切だと思います。これからの人生、困っている人が周りにいたら、その人に手を差し伸べられる人間になりたいと思っています。

障害をもっている、もっていないに関わらず、その人らしく生きていくということは、とても大切なことであり、みんながそのことを理解することは、とても大切な事だと思います。

これからも人間が人間らしく生きるために誰もが持っている権利は、人権を尊重し、相手を理解し、助け合い、協力し合える社会になれば、すべての人が幸福な人生を送る事ができるのではないかと思います。なので私は、姉の1番の理解者まではいきませんが、姉が困っていたりすると、手を差し伸べ続けようと思います。

